「日々の理科」（第 934 号） 2017（H29),-1,26

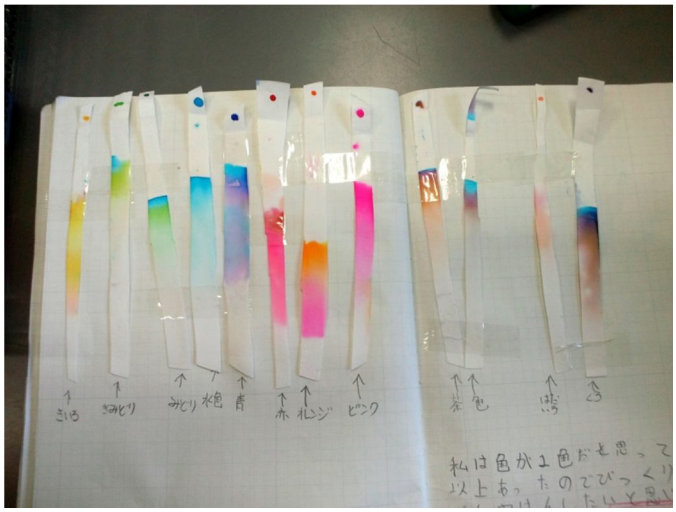
「ペーパークロマトグラフィー(3)」

お茶の水女子大学附属小学校　田中 千尋

LG21（乳酸菌飲料）の容器を使ったペーパークロマトグラフィーの実験は、３年生の子どもでも非常に簡単にできることがわかった。大きめの濾紙１枚と、LG21 の容器１個を配っておけば良い。あとは、自分たちで「あーだこーだ」言いながら、楽しそうに実験を進める姿が見られるはずだ。

子どもの机上は、たちまち「研究所」に早変わり。

さまざまな色で試してみて、元のインクの色によって、あまり分離しないものと、多色に分離するものがあることもわかってきた。



この実験の良いところは、少し乾かせば、そのまま実験結果をノートに貼って残せるところだろう。この子どものノートには、持っている水性カラーペンのほぼ全色の実験結果が残されていた。

実物の実験結果だけでなく、「何色のペンのインクが、どんな色に分かれたか」ということを、スケッチのことばで記録していた子どももいて、感心した。

【子どものノートから】
「カラーペンの色が、ろしの水と上がって、３色に分かれて、きれいでした。〇〇くんの、テーッシュ（ティッシュペーパー）の写しんと同じでした。」
「赤やき色は、あんまり分かれなかったけど、黒やちゃ色は、３色か４色に分かれた。スバラシイと思った。カラーペンの会社は、よく考えて色を作っているものだと思った。」

ごく簡単な実験だったが、子どもたちにとっては、「色々な」「新しい知との出会い」があったようだ。